

令和7年 7月 1日



研究だより

第64号

自治医科大学附属さいたま医療センター

研究と臨床の交差点で
——眼科医としての歩み

眼科 学内准教授 中川 卓



2025年2月1日付で、総合医学第二講座眼科学内准教授・診療科長を拝命いたしました。このたび「研究だより」への寄稿の機会を頂戴し、これまでの歩みを振り返らせていただきたく存じます。

2004年に東京大学を卒業後、2年間の初期臨床研修を経て、2006年4月に東京大学眼科に入局いたしました。同年10月より東京都健康長寿医療センターに異動し、白内障手術をはじめとする臨床に従事いたしました。

当時、東京大学眼科では新家眞教授が教室を主宰されており、「週に一度は東大に来て、緑内障の動物実験に取り組んでみては」とのお言葉を頂戴しました。その鶴の一声のもと、マウスの高眼圧虚血再灌流モデルを用いた網膜神経節細胞の減少に関する解析に取り組むこととなりました。研究経験の乏しかった私にとっては試行錯誤の連続で、思うような成果が得られず悩む日々が続きましたが、当時講師でいらした相原一先生（前・東京大学眼科教授）が実験室に足を運び、直接ご指導くださったことは、今でも深く心に残っております。

その後は、高橋秀徳先生（現・筑波大学眼科教授／自治医科大学眼科准教授）のご指導の下、高血圧モデルラットを用いた網膜血管における白血球接着の解析や、アクリジンオレンジを用いた眼底撮影などの手法を学ばせていただきました。また、臼井智彦先生（現・国際医療福祉大学成田病院教授）のご指導のもと、ヒト角膜上皮細胞シートを用いた緑内障点眼薬の毒性実験にも携わる機会を得ました。

当時、東京大学眼科に在籍されていた蕪城俊克教授とは、直接ご一緒する機会はありませんでしたが、夜遅くまで黙々と研究に取り組まれていた様子は非常に印象的で、研究に向き合う真摯な姿勢を間近で学ばせていただきました。

その後、天野史郎先生（当時 東京大学眼科教授）のご助言を受けて大学院に進学し、油谷浩幸教授（東京大学先端科学技術研究センター）主宰の研究室に所属いたしました。次世代シーケンサーを用いた網羅的トランスクリプトーム解析やエピゲノム解析の手法を学び、ヒト角膜上皮細胞や角膜内皮細胞を対象に、マーカー遺伝子や転写因子の制御機構の解明に取り組みました。

角膜細胞の特異性を規定する転写制御ネットワークの理解を目指し、wet な実験と dry なデータ解析に苦労しながらも、分子レベルから眼を見つめ直すことができたこの期間は、臨床医としての視野を広げる貴重な時間となりました。

大学院修了後は、国保旭中央病院やさいたま赤十字病院といった中核病院に勤務し、幅広く診療および手術に従事してまいりました。とくに、さいたま赤十字病院は、川島秀俊前自治医科大学眼科教授がかつて眼科部長を務められていたご縁深い施設でもあり、諸先輩方が築かれた伝統のもと、日々の診療に取り組むことができました。石井清眼科部長のご指導のもと、緑内障手術、白内障手術、網膜硝子体手術に加え、角膜内皮移植や感染性角膜炎の管理など、多くの臨床経験を積ませていただきました。また、眼内レンズの強膜内固定術、低侵襲緑内障手術、角膜移植症例に関する臨床研究に取り組んで参りました。

近年では、前眼部三次元血管断層撮影装置 (AS-OCTA) を用いた白内障手術・翼状片手術後の血管新生の可視化や、蕪城教授・梯名誉教授のご指導のもと、糖尿病黄斑浮腫に対する抗 VEGF 療法における治療中断と視機能予後に関するリアルワールドデータの解析などにも携わっております。

自治医科大学附属さいたま医療センターに赴任したことを契機に、基礎研究も再開いたしました。近年では、シングルセルレベルで空間情報を保持したトランスクリプトミクス解析が可能となり、大学院在籍時と比べて技術は飛躍的に進歩しております。今後は、当時の留学先である永江玄太准教授らのご助言をいただきながら、角膜細胞の網羅的解析に取り組んで参りたいと考えております。

研究は、ときに成果が見えにくく、孤独に感じることがありますが、対話と継続を通じて育まれる「集団知」でもあります。そしてその価値は、

「今すぐに成果が出なくても、いずれ誰かの診療の助けになる」という信念に支えられているのではないかと感じております。若い先生方にも、臨床と研究の両面に関心を持ち、自ら問いを立てて学びを深めていけるような環境づくりに、取り組んで参ります。

編集後記

今回の発行にあたり、赴任早々大変お忙しい中、中川先生にはご執筆を快諾頂きありがとうございます。

梅雨入り前の恵みの晴れの日、山野草を見に出かけてきました。少し頑張って山の頂上まで行ってみると、そこからは富士山・日本アルプス・八ヶ岳連邦が一望に見渡せて日常を忘れる一時が味わえました。

今年度より研究だよりの構成を少し変えて発行する運びとなりました。各科の研究をご紹介出来たらと思っております。



自治医科大学附属さいたま医療センター

研究だより 第 64 号

発行日	令和 7 年 7 月 1 日
発行	自治医科大学附属さいたま医療センター
発行責任者	センター長 遠藤俊輔
編集	事務部 総務課 研究室
題字	遠藤俊輔 センター長